



【解説】

この小唄は、歌舞伎「三人吉三 廓初買」きちさき くるわのはつかいの大川端 庚申塚の場の台詞せりふから取ったものであるが、歌舞伎のストーリーとは関係なく、「厄払い」と呼ばれていて、縁起が良いとされている。

夜鷹の「おとせ」、その兄「和尚吉三」も盗賊で、他に二人の盗賊として女装の「お嬢吉三」と、元は侍の子の「お坊吉三」が出てくる場である。物語は歌舞伎にゆずるとして、台詞はお嬢吉三が、おとせを川に蹴り落として、百両の金を奪った場面である。

小唄に仕立てられた台詞は、春の宴席の座敷唄である。従って、原文中の薄い文字は、お座敷では唄われない。

筆者なら、その部分を替え歌とするだろう。手慣れた地方さんなら、アドリブで三味線を弾いてくれる筈だ。あるいは、替え歌の部分しゃみせんかたは三味線方が演奏の手を止めて、待ってくださいます。無論、諸兄が何か良いことがあった内容を唄うのだ。

白魚は北海道から九州まで、日本の各地で漁がなされる。

博多バージョンで云えば、室見川むろみがわを上ってくる白魚は、「三四郎」という料理屋で「躍り食おどい」をするのだ！

昔し、当時の恋人と行ったなあ。あなた貴女も食べようって。